

ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！

NPO みなまた



No.59 (2021年4月)



新型コロナウイルス感染症が始まって一年半。大都会から遠く離れた水俣でも急に感染が広がっています。日々の感染防止に努めています。

ご家族との面会もままなりません、オンライン面会やホームでの様子をお知らせするお便りをお出しするなどしています。

外での活動が制限されるなか、少しでも楽しみのある生活をとっています。



発行：NPOみなまた 発行責任者：中山 裕二 ☎867-0045 水俣市桜井町2-2-20

☎0966-62-9822 fax0966-62-1154 Eメール：npo@minamata.org <http://minamata.org/>

題字：江口 睦美

(カット：岡本あき)

本年度もよろしく申し上げます

NPOみなまた代表理事 中山 裕二

この間、コロナ禍に振り回されています。

グループホームの面会制限、職員の緊張感など初めての経験です。また、水俣病の裁判は、期日が中止されたり、傍聴が制限されたりしています。

ただ、このコロナ禍は弱者に対する影響が大きいと思います。たとえば裁判が遅延すると国には何の影響もありますが、患者は命を削ることになります。

政府には、ワクチンはもとより有効な対策をいち早く大規模にとることを強く望みたいと思います。

とにかくにも私たちのまわりでは、感染なく過ごすことができます。職員をはじめ、関係者のみなさまに感謝です。



ところで、3月12日、チッソ（株）は、「2020～2024年度 中期計画 ～業務改善のための計画」（以下、中期計画）を公表しました。昨年5月に環境省から赤字続きで熊本県債の返済に滞りがでている状況をふまえて、業務改善を求められていたことによるものです。

チッソ（株）は、記者会見等で説明することなく、同社のホームページで公表するにとどめました。また水俣病被害者団体から説明会を開くように求められたことに対しは、「本計画は当社ホームページにて公開しておりますので、ご確認をお願いいたします。従いまして、貴申し入れにつきましてはお断り申し上げます。」と水俣病の発生当時のチッソ（株）を髣髴とさせる不誠実きわまりない対応をしています。

水俣病患者や地域に責任をもつ姿勢はみることができません。

水俣市をはじめ、この地域でチッソ（株）が果たすべき役割は大きく、水俣市や周辺地域の市民生活に直結しています。毎年数百人単位で人口が減り続ける中、雇用や生活を守り、熊本県債を返済することで、県民や国民に対する責任を果たさなければなりません。

今後4年間、チッソは水俣病患者の補償に責任を持ち、いまだ未解決の水俣病の解決のめどをどうつけるのか、そして、市民が一体となってどのような街づくりをするのかが問われることとなります。

NPOみなまたも設立20年を迎えるこの年を契機に、水俣病問題の早期解決と街づくりについて、力を尽くしていかなければならないと胆に銘じています。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

福島第1原発における汚染水の海洋放出に抗議声明

2021年4月19日

水俣病被害者・支援者連絡会（代表：上村好男・水俣病互助会、水俣病被害者互助会、チッソ水俣病患者連盟、水俣病被害者の会、水俣病胎児性小児性患者・家族・支援者の会、新潟水俣病患者会、水俣病不知火患者会、新潟水俣病阿賀の患者会、水俣病被害市民の会の水俣病被害者9団体他、合計31団体及び個人）は政府が東京電力福島第一原発から出る放射性物質トリチウムを含む汚染水を海洋放出することに抗議し反対する声明を出しました。（抗議文は次頁へ）

水俣病の悲劇を繰り返すな！ 福島第1原発における汚染水の海洋放出に強く反対する

政府は4月13日、関係閣僚会議において、東京電力福島第1原発で発生する高濃度のトリチウムを含む放射能汚染水を処理し、海洋に放出する方針を決定した。

「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」とした約束を反故にした決定に漁業関係者のみならず、多くの国民が怒りと不安の声を上げている。

メチル水銀を海洋放出した結果、食物連鎖によって魚介類にメチル水銀が高濃度に蓄積し、それを食べた人々に健康被害が引き起こされた水俣病を経験した私たちは、今回の事態を看過することはできず、海洋放出に強く反対するものである。

政府は、トリチウムを世界保健機構（WHO）の定める飲料水基準より大幅に希釈して放出するとしている。しかし、WHOの基準は、日本と違って良い飲料水に恵まれない地域で、水を飲まずに死んでしまうより、しばらくは生き延びるために飲んでもよいとして定められた基準だと言われている。

放射性物質であるトリチウムの有害性についてはいくつかの研究もあるが、炉心溶融事故によって生ずるトリチウムは極めて大量であり、海洋に流し続けた場合、生息する魚介類にどのような影響が出るのか、どれくらい蓄積するのか、そうした魚介類を人が食べた場合、内部被曝も含め人体に影響がないのか、過去にこれだけ大量のトリチウムをはじめとする放射性核種を海洋放出した事例がないため、その安全性は確立していないのである。

メチル水銀を含む工場排水を希釈して捨てても生物濃縮という自然界の摂理によって、海や川へ流出したメチル水銀が100万倍もの濃度になって人体に及ぼした事実を私たちは水俣病で経験してきた。また、希釈したといっても放出されるトリチウム等の放射性核種の総量が減少するわけではない。そして今回の放出では、食物連鎖や内部被曝は考慮されていない。

日本のトリチウムの排水規制値は、あくまでも原子力施設の稼働を前提としたものであり、その基準以下であれば安全であるという保証はない。そして炉心溶融事故によって生じる大量のトリチウム等の放射性核種を海洋に放出し続ければ、食物連鎖や内部被曝によっても健康被害が引き起こされることはないという確証は何もないのである。

また、他核種除去設備では、トリチウムだけでなく、人体に大きな影響を与えるストロンチウム90、炭素14、ヨウ素129などの放射性核種なども処理できないといわれている。

このように、人体への影響が明確になっていない段階での放射能汚染水の海洋投棄など決して許されるものではない。

東京電力福島第1原発における汚染水の処理にあたっては、市民団体から、「堅牢な大型タンクによる陸上保管の継続」や「モルタル固化による処分」など建設的な提案がなされている。このような提案を無視し、国民の合意形成がなされないまま、海洋放出を決定するような暴挙は許されるものではない。

水俣病は、1956年5月に公式確認された食品中毒事件であるが、厚生省は食品衛生法の適用を否定し、水俣病の健康被害の全体像を無視し、医学的根拠のない認定基準で多くの患者を切り捨ててきた。これまでに国が水俣病と認めた患者は3000人近いが、水俣病による被害は不知火海全域、さらに阿賀野川沿岸に大きく広がり、これまでに約7万人もの健康被害が明らかになっている。

水俣病の被害を拡大させた国と熊本県の責任は、司法の場でも明確に断罪されている。だが国は実態調査をせず、認定基準を改めないため、水俣病の公式確認から65年。いまだに水俣病の被害者たちは苦しみ続け、水俣病と認めよと裁判に立ち上がる被害者たちが後を絶たない状況にある。水俣病で犯した過ちを原発事故処理で繰り返すことは許されないのである。

今回の福島第1原発における放射能汚染水の海洋放出は、決定に至る手続きの不備、強引さを含めて自然や人体に未曾有の被害をもたらした水俣病の教訓を全く顧みない暴挙である。

水俣病において、有害物質の汚染と長期微量汚染が人体に甚大な影響を起こすという経験をしてきた私たちは、水俣病の教訓を全く顧みず、同じ過ちを繰り返そうとする今回の決定に断固抗議し、反対するものである。

三月末にキトさん家では花見を行いました。場所については近くの公園が人も少なく桜も綺麗との事ですぐに決まり、移動や食事についてもスタッフのおかげで問題なく花見を行う事が出来ました。当日の天気も良く、利用者の方々から「綺麗かねえ」との声があがり、スタッフの分の椅子が一つ足りないといったちょっとしたトラブルはありましたが花見を行う事が出来て良かったです。

キトさん家 元村 健二（介護福祉士）



今年は、全員揃って行くことが出来ました。初めは「行かない」と言われていた方も景色を見るにつれて笑顔が出てきて「きれかね〜」と。写真の時には、自らポーズまで取られていました。

お花見後は、外にイスを並べてお茶とおやつをいただき、いつもと違い一層美味しく感じました。また、来年が楽しみです。

（ふれあいの家 スタッフ）

お化粧はあまりしたことない方や、ご自分でしかしたことがない、という方がほとんどです。

初めは少し緊張されていたご利用者様も、お化粧が始まるとリラックスされた様子。

「口紅は赤じゃな」、「チークはピンク」など、久しぶりのお化粧を楽しまれました。最後にお好みの柄の羽織を羽織って記念撮影(*^_^*)

午後からは桜餅をつくっていただきました。

ふれあいの家 田中 智子（介護福祉士）



この度、キトさん家で菜園を始めることにしました。以前からその話はあったのですが、なかなか、行動に移せずじまいでありました。今回始めようとしたきっかけは、入居者のMさん。在宅にいたころは、畑仕事を生きがいにしておられました。入居後も自宅の畑が気になるようでしたので、ここに菜園を作ろうと話あいを行いました。いざ、作るとなって私たち職員は素人ですので、Mさんと一緒になり、Mさんの指示の下、菜園を作らせていただきました。ここには、「あれとあれと植えて」



「肥料はあれがいい」

などのご指導をいただき立派な菜園が完成しました。日に日に成長している野菜を見ながら笑顔のMさん。次はあれを植えようなど職員と話しています。

早く食卓に並ぶのを入居者の皆さん、職員ともども楽しみにしています。

キトさん家 元村 健二（介護福祉士）



仕事を楽しみ、笑顔で♪♪

私が介護職を選んだ理由は、人の役に立つ働きのいいある仕事をしたいと思ったからです。今年で14年になりますが、その気持ちは今も変わらず持ち続けています。入居者様に毎日を楽しく生活してもらうためには、私自身が仕事を楽しみ笑顔で接することが大事だと考えています。

介護職は入居者様に直接触れ、お一人おひとりの生活に寄り添いサポートする仕事なので「大変」と感じるがありますが、難しいことでもやり続けていけばいつかは自分の身となり必ず成長できると信じています。

これからも、出来ないと初めから思うのではなく、出来るかも知れないと考え、周りにいる人と支え合って仕事をしていきたい。

三郎の家 川上 和弥（介護福祉士）

第21回定期総会を行います。

日時 6月19日（土）14時～（オンラインで開催する予定です）

大切な、ふれあい農園の活動

ふれあいの家の前には広い畑があります。そこは週2回ほど地域のみなさんが数名が集まって野菜を作っています。

今は大根、にんじん、キャベツ、スナップエンドウ、ブロッコリー等の収穫の時です。他にもそら豆、里芋、ねぎ、なす、花の苗などが所狭しと植えられています。ここが「ふれあい農園」です。実は私も、ド素人ながら毎回参加しています。

この活動は、介護予防を目的とした市のプロジェクト「もやい・ふれあい菜園事業」が5年前に出来、地域住民が主体となって運営しています。水俣18区地域福祉事業会です。

畑を耕やすところから始めて、採れたて野菜をお弁当に一品加え、一人暮らしのお年寄りに月一回配ったり、公民館で会食したり、無人販売所に週一回出荷したり、収穫祭を開催したりといろいろな活動の場を広げてきました。また、その活動の様子を通信で毎月地域にお知らせしたりもしています。

ところが、水俣市の財政逼迫を理由にプロジェクトは今年度から打ち切られてしまいました。介護予防にとっても、地域の活性化としても、この事業はとても大切です。継続することに意味があるので、寄付金や助成金を活用して頑張って続けていくことになりました。地域の皆さんの熱い思いに支えられています。

ふれあいの家の入居者の方もふれあい農園での農作業の様子を眺めて安心されている様子です。畑の花を摘んだり、収穫したエンドウのさやをむいたり調理に一役も二役も買ってもらっています。

今はコロナウイルス感染予防のため一緒にお茶タイムも出来ませんが、以前は時々地域の方たちとお茶を楽しんでもらっていました。一日も早くコロナが沈静することを願うばかりです。

ふれあいの家 坂本 昭子（介護福祉士）



ふれあい農園で玉葱の収穫する18区のみなさん



ふれあい農園で収穫されたグリーンピースを調理
(ふれあいの家)



俳句を楽しく

林 田 ぶ し

俳句を楽しくと言っても、コロナウィルス感染症猛威の真ただ中。月1回の会場確保もままならず、いずこも通信句会を強いられています。その分、実務処理のわずらわしさが大変。

また俳句自体もコロナとかかわらずにはおれません。

☆啓蟄やコロナ禍のホモサピエンス

啓蟄＝地中の虫が動きはじめ外に出てくる時期、立春の少し前ごろの時期

☆コロナ規制二転三転亀鳴けり

ある新聞の配達で山間地を受け持っていますが、田んぼや畑に出ているのはほぼ高齢者ばかりでしかも一人。

☆老いてなほ一人のたづき春田打つ

また漁村でも

☆売物にならぬ目刺を猫と食ふ

子どものころ、球磨川源流の田舎、母に実家に住んでいましたが、私は霜焼けに弱い子ども時代でした。

☆霜焼けの骨まで透けて泣いた日も

日本は地震による災害も含めて「人災」が多い国では？

☆三月や戦災震災追善日

☆メーデーやノーモアミナマタ慰霊の日

☆民たぶらかす原発に顰める

五十代を過ぎてから、幾重にも病いがふきだしてきているが、あつけらかんと前向きこそよけれ

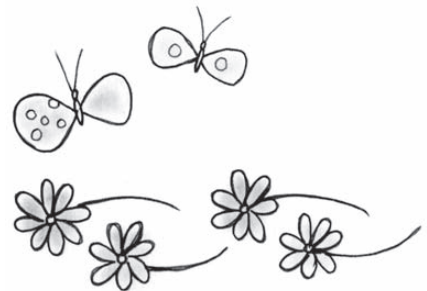
☆そとづけの膀胱四六時虫刺され

☆後遺症あれど息災寒卵

☆昼寝して診療予約忘れけり

野党共闘に期待の大きい総選挙いよいよです。

☆総選挙朝しっかりと玉子飯



♪ よろしくお願ひします ♪

令和2年4月に入職しました。

3年間ほど間があきましたが、以前のケアを思いだし、スタッフの皆さまに助けていただきながら日々を過ごしています。

今だ終息しないコロナ禍の中、大変な事もありますが利用者様に寄り添い笑顔あふれる毎日を過ごしていただけるように努力していきたいと思っています。

三郎の家 川崎 美紀



4月からNPOみなまたで事務員となりました。今まで、業者運動の民商で商売の相談ばかりしてきました。はじめて介護関係に携わることになり、周りの方々に優しく教えていただき、学ばせていただくことがたくさんあります。一日でも早く仕事に慣れるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

事務局 畑山 美香



人手不足の背景に

2000年に介護保険制度が始まって21年。NPOみなまたも、介護保険制度開始と同時に設立され、翌年には「グループホーム三郎の家」を開設しました。現在は3事業所になり、会員・ご家族の協力と職員の皆さんの頑張りで何とか運営しています。

しかし、この数年、介護保険制度の創設当初には想定されていなかった問題が噴出しています。いちばんは介護現場の深刻な人手不足です。ハローワークでの募集は3年以上、応募がありません。求人広告にも応募ゼロ。やむなく派遣会社に頼らざるを得ない状況が続いています。

本来、入居者の生活や職員の処遇改善に充てるべき費用が人材確保に使われてしまっている現状は残念でなりません。この流れを少しでも改善しようと事業所間でのやりくりなど工夫していますが、法人の経営努力には限界があります。

介護の人材不足は賃金が高業種よりも賃金が高いことが大きな要因です。これまで、政府は介護職員の処遇改善は必要と言いながら、介護報酬を繰り返し引き下げてきました。今年4月の改定でもその問題を見ないで、介護ロボットの導入やテクノロジー活用で「介護人材の確保」をしようとしています。人手不足の解消や感染症・災害への対応力強化のためには、基本報酬の底上げによる処遇改善こそが必要です。

「物ではなく人を相手にする介護は本当にやり甲斐のある素晴らしい仕事」、「利用者やご家族の笑顔、感謝の言葉で救われる」。これからもこんな声がたくさん聞ける介護現場であってほしい。そのための施策を政府には強く求めたいと思います。

(事務局 草野 信子)

編集後記…

本当に久々のニュース発行になりました。発行にかかる費用の捻出も大変ですが、今後とも努力したいと思っています。よろしくお願いいたします。